

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	(株) エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地		
自己評価作成日	24年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自家栽培の米や野菜、果物を使用して、安心・安全な食事の提供を心掛けています。毎年恒例になっています。さつま芋やじゃが芋掘り等、野菜の収穫も皆様楽しみにして下さっています。また、月に一度の外食や月に2回の喫茶店や春・秋の遠足等の外出も積極的に行っています。昔、開設者の家族が入居していたこともあり、利用者様、皆様をひとつの家族と考え、理念のひとつである“笑顔の絶えない楽しい暮らし”を目指して、家族様や地域の方々、同業者様、皆様のお力をお借りして日々、頑張っていこうと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは三つの理念を基に「一日一笑」をテーマとして掲げ、常に利用者本位で職員が一体となって日々の業務に当たっている。ゆったりと設計された明るいリビングでは昼食後利用者がソファで仲良くおしゃべりする光景が見られた。ホーム所有の田や畑で作られる新鮮な食材を使って提供される食事は好評で、それらの持つ意味合いは大きい。管理者や職員は日頃より利用者家族に心を配っており信頼を得ている。地域の人々の協力も着実に得られる様になって来ており、職員同士の連携も良いことを鑑みれば、更に展がり期待出来るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、理念をその人らしい生活を大切にす る 笑顔の絶えない楽しい暮らし地域に根ざした暮らしとしています。	理念は入社時に説明し、玄関・フロアにも掲示されていて、職員は理解した上で日々の業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や近所の買い物、喫茶店等を通して地域の方々との交流を支援できるように努めています。避難訓練では地域の方も一緒に参加して下さいました。	地域の人々とは散歩や買い物・喫茶店や神社へのお参りの際に挨拶を交わし、差し入れもある。介護相談の看板を掲げていることで、地域の人々からの相談にも応えている。又、様々なボランティアも継続して受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症について触れたり、施設の入り口に介護相談の看板をつけています。またこども110番に加入しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告をして、メンバーの方々にご意見をいただき、サービス向上に努めています。また、メンバーの方に慰問をやっていただいたり、避難訓練等の参加もしていただいております。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、ホームの活動報告をすると共に、認知症の話をしたり事例報告をしたりしている。又、民生委員や保健委員から出された議案をサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の受け入れを通して、事業所の実情を相談させてもらっています。	区役所福祉課の職員とは生活保護の利用者の件等で定期的に連絡をとっている。市役所には分からないことを相談したりして連携を図っている。7月には名古屋市の実地指導が入った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等を通して職員に理解を求めて、日頃より、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	マニュアルもあり、月に1回のフロア会議・スタッフ会議等を通して職員間で話し合ったり、勉強会をしている。1・2Fの入り口は利用者の安全を考慮し施錠しているが、家族の了承を得ている。	日頃当たり前になっている事柄の中で何が身体拘束に当たるのかを含め、再確認・意識統一の為に今一度勉強会を行い、外部の研修にも定期的に参加されることを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やマニュアルにて学習しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルにて学習する機会を設けています。また身寄りのない方は権利擁護の機関に支援していただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご説明し、納得していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にご要望等を伺うよう心がけ、意見をいただいた場合はなるべく早く反映できるよう、心がけています。	毎月「なごみの里だより」を送付し、ホームや利用者の様子を伝えている。家族会や面会時に意見・要望を伺う様心掛けています。出された意見・要望には速やかに対応し、職員間で話し合い日々のケアに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ですが、個人面談や食事会を設けて、意見を聞いて反映できるように、心がけています。	職員からは会議の際や日常的に意見が出されていて、日々の業務に反映させている。職員からの意見や要望には検討して速やかに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を把握して、向上心を持って働いてもらえるように、日々努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある場合、職員全員に周知し、力量をみて、研修の声かけを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や親睦会に参加してもらい、同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が生活に困らないように耳を傾け、ご本人に合った、個々の対応、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご希望を伺い、なるべく叶えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご事情によっては、他のサービスを紹介させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、サービスを受けてもらう一方、料理の仕方や野菜の作り方等、色々な生活の知恵を利用者様より教えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にしている時には間柄の修復にも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切にしながら関係が維持できるように支援させてもらっています。	家族や孫以外にも職員の子供が来たり、隣接のデイサービスと合同でレクリエーションを行うことで交流を図っている。家族の協力で馴染みの床屋や御園座へ行ったり、外出や外食の支援もなされていて、それぞれ馴染みの関係が継続できる様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニットを一つの小さな社会として、人間関係が上手くいくように、支援させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても他施設へ伺い、近況を聞かせてもらっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望が叶えられるよう、日々努めています。	毎日の生活の中で表情やしぐさで利用者の思いがわかるように努めている。思いを伝えることが困難な人にはマンツーマンになるときなどに話しかけ、個別に話をして気分を和らげていけるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族より伺ったり、日々の生活の中で、ご本人より伺い把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を職員同士、申し送り等で把握し、その方に合った対応を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロアー会議にて職員同士話合ったり、面会時にご家族に相談してケアプランを作成しています。	モニタリングは月1回行ない、介護計画は3ヵ月毎の見直しとなっている。見直しの必要があれば、医者に確認してプランに反映させている。	家族に意向を聞き、それをプランに反映されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアー毎の連絡帳にて情報を共有し、必要があれば、ケアの対応や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本位のサービスができるよう、常に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰心の強い方には神社参り、コーヒーのお好きな方は近所の喫茶店へ、買い物がお好きな方はスーパーにお誘いするという具合に個別に対応させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について伺い、当事業所の協力医の先生に日常は任せてもらえるように説明させてもらっています。	ほとんどの人が入居時にホームの協力医に変更している。専門医へは基本的に家族が連れて行っている。情報提供や職員がメモをとったのを医者へ持って行き、報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロア毎に看護師ノートがあり、日常の相談を書き込んで相談しています。また連絡体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、すぐにお見舞いに伺い、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護をさせてもらっていることをご家族に説明させてもらっています。また必要があると予想される方には早めにご家族に相談させてもらっています。	終末期の方針はあり、入居時に家族に説明し、納得してもらっている。ホームでできる限りのことをさせてもらうが、医療が必要になったら医者と相談の上、他の施設を探している。	看取りについての勉強会を定期的に行なうことを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや救急講習にて対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地震や夜間を避難訓練を行っています。	1回目は消防署の協力のもと、救助方法について、あと1回は自主的に夜間想定避難訓練を行なっている。民生委員や地域の人の参加も得られている。備蓄として水、米、おむつなど用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様本位の対応や言葉かけを心がけています。	職員は一人ひとりをしっかり把握しており、その人に合った言葉遣いや対応をしている。大切な書類は鍵をかけて保管して、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より細かな観察を行い、話しやすい、表現しやすい環境作りを目指しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、おひとりのペースを大切に、ゆとりある生活を送っていただけるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくおしゃれができるよう、配慮し、支援させてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に伺い、食べたい物を献立に入れたり、力に応じて、お手伝いをしていただいています。	手伝える人は下ごしらえもしている。下膳は各自でキッチンまで持っていっている。お祭りには押しずしを作ったり、季節ごとのはまぐりやうなぎなどの旬の物を食べている。おやつ作りは月2回ホットケーキやおはぎ、スイートポテトなどをみんなで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を記録しています。また必要があれば、個別にて水分量も記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥予防のためにも口腔ケアは毎食後しっかり行ってもらっています。力に応じた対応をさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、なるべくトイレにて排泄していただけるように、支援させてもらっています。	自立している人は2、3人おトイレの後に聞いて確認している。他の人はチェック表で把握して声かけをしている。夜間は声かけをして誘導したり、リハビリパンツやパットを交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、乳製品を積極的に摂る、腹部マッサージを行う等をして、なるべく薬に頼らない排泄を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、タイミングや声かけの方法情報を共有して、気分良く入っていただけるように、努めています。時にはご家族にも声かけを手伝っていただきます。	週に2回ないし3回入浴している。拒否があるときには、声かけやタイミングを見計らっている。人によって声かけを工夫して、ときには家族が来訪している時には声をかけてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人、おひとりお好きなように生活していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等にて全職員が把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かしていただけるように、支援させてもらっています。また、気分転換に月に一度の外出や2週間に一度、喫茶店へ行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力を求め、お買い物や馴染みのある場所へお出かけしてもらっています。	天気がいい日は近所を散歩している。1日、15日は近所の氏神様へのお参りに出かけている。季節ごとのお花見や紅葉狩りなどへはお弁当を持って行っている。また、遠足で昭和村やなばなの里などへも出かけている。外出は月1回、喫茶店へは月2回出かけ、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて対応させてもらっています。できる限りご本人の希望を優先し、所持できるように支援させてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけていただけるように配慮しています。またご本人のご希望により代筆も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には四季折々の木々が植えてあり、いつでも日本の四季が感じられるように設計されています。	広い居間にはソファがたくさんあり、食後は利用者が集まりテレビを観たり、おしゃべりをしたりして寛いでいた。一緒に作った季節の壁飾りや利用者の作品が飾られて居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人でデッキにて日向ぼっこをされたり、ソファで横になられたりと、お好きなように日々過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みのある物をお持込いただけるように説明させてもらっています。	自宅で愛用していたタンスや大切な仏壇やテーブルが持ち込まれ、馴染みやすい居室作りがされている。家族の写真や自分の作品も飾られ居心地良く過ごせている様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を大きくしたり、目印をつけたりして、わかりやすくする工夫を行っています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371100849
事業所名	グループホーム なごみの里

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	敬老の日に戸田川緑地で幼稚園児と交流し手作りの物を手渡しされ、利用者は喜び大切にしている。お祭り際には神輿・神楽・獅子・太鼓がホームの前まで来てくれて見物した。福田学区の女性会の方が歳末の助け合いで集めたお金を寄付してくれたり、地域の人々が避難訓練や運営推進会議に参加してくれたりして協力的である。毎月のチューブ体操・絵手紙に加え、フラダンス・日本舞踊・落語・太極拳等の隣接のデイサービスと合同でのボランティアも継続しており、今後習字が増える予定である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	運営推進会議は、民生委員・保健委員・老人会会長・町内会長・地域包括支援センター職員・利用者家族・ホーム管理者等の出席で2ヶ月に1回開催されている。地域包括支援センター職員の出席が得られたことで地域への情報発信量が増えた。又、ホームの活動報告以外に意見交換が行われ、それらを日々のサービスの向上に繋げる様努めている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	区役所とは生活保護の利用者の受け入れを通じて定期的に連絡を取り合っているが、他に年1回、管理者が区役所との施設懇談会に出席することで病院等とつながりを持ちコミュニケーションを図っている。又、管理者は市・区主催の勉強会には出席する様心掛けており、内容によって会議の場で職員にフィードバックしている。7月に行われた名古屋市の実地指導では危険物や衛生面でのアドバイスを受けた。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	月1回の「なごみの里だより」の他にも必要があれば手紙を添えている。日頃から利用者家族とは折あるごとに話をし、意見・要望を言い易い雰囲気作りを努めており、出された意見・要望には速やかに対処し、職員間で共有すると共に日々のケアに反映させる様心掛けている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認(記録、写真等)できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。